

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 白石市立福岡小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字陣場1

E-mail : info@fukuoka-e.shiroishi-c.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 116名 女子 123名 合計 239名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

白石市には豊かな自然や歴史、また白石和紙などの伝統的な産業があり、本校では、その地域の特色を生かし地域の素材を教材にして「地域」と「郷土」について探究していく学習に取り組んでいる。

第3学年では、地域の自然や史跡等の見学を行い、そこから自らが設定した課題について調べ探究していく学習に取り組んだ。身近な史跡の学習では学区内にある「おがる石」にまつわる言い伝えなどについて学習した。普段目を向けることない事象に子供たちにとっては新鮮な驚きと地域・郷土に対する興味・関心を高めることができた。また、学区内の弥治郎地区にある「弥治郎こけし村」の見学を行った。弥治郎地区は山あいの小さな木地師の集落で、歴史的には山林を開墾することによって江戸時代の初期に成立した集落である。現在、多くの工人が居を構え地域に根ざした弥治郎系伝統こけしが作られている。ここでは、工人の新山吉紀氏よりこけしの歴史、系統などの講話やこけし製作の過程の見学などの体験活動を行った。子供たちは普段「こけし村」も名前は聞いてはいたものの、内容についての理解は浅く、この見学・調べ学習をとおして、昔から続いている伝統こけし作りが自分の学区内にあることに驚くとともにそのことに誇りをもつ様子も見られた。今後も地域の様子に目を向けられる態度を育てたいと考える。

第4学年では、古くから城下町として栄えた本市の伝統的な文化・産業などに目を向け、地域の伝統産業を守り育てる人々の願いや工夫等に気付かせ、白石をよりよくしていこうとする態度を育むことをねらいとして、市内にある「白石和紙工房」の見学を行った。白石和紙は強度と耐久性に優れ、紙衣のような衣服の素材としても使われ、江戸時代には品質・生産量から全国的に高く評価された和紙である。戦後は遠藤忠雄氏が伝統復興の為に紙工房を開き、過去の技術研究や創意により高品質の紙の生産を再開し、遠藤氏没後は妻のまし子氏が遺志を継いで工房を運営している。その工房での見学で、和紙の歴史についての講話や和紙作りの実際を見学し、白石和紙が現在も伝統的な技術を継承し、その技術を後生まで伝えようとする工人の工夫や努力、そして生き方に触れることができた。

「白石うーめん」は今から400年ほどの昔、白石城下に住む鈴木味右エ門という人物が、父の病を治すために旅の僧から油を一切使わない麺の製法を教わり、現在までその製法が引き継がれてきた白石の名産である。誕生したエピソードから親孝行の象徴にもなっている。子供たちは市内にある吉見製麺工場を見学してその製法等の理解を深めた。また、うーめんのよさを生かした調理をする活動をとおして、未来のうーめんの食べ方も含め様々なうーめんを食べ方を提案することができた。

以上ような活動を通し、児童は自分たちの住む「地域」の様々な事象に向き合い理解を深めてきた。そして、白石が単なる住まいの「地域」からわたしたちの「郷土」へと認識が変化していき、これまで以上に愛着心がわくとともに将来の白石の姿についても考えることができるようになった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）